

お寺に嫁いで57年の間尽くして来ました。 今、努力が実った思いです

浜松(ゆうゆうの里) 岡本紀子様(85歳)

平成30年9月 一人入居

嫁ぎ先は500年前から 30代続く古いお寺

主人とはお見合いで23歳の時に結婚。主人の家は500年前から30代続く大きなお寺で、4500軒の檀家を抱え、幼稚園も経営していました。私もお寺の娘で幼稚園の先生をしていたので丁度良いと話が進んだようです。住職の義父は良寛さんみたいな人で、貧しい家で孤児になった子供たちを引き取り、家族と一緒に住まわせていました。義母は私に

ません。これには泣けましたねえ。毎朝4時に起床し、お釜でご飯を炊いて食事の支度を済ませてから幼稚園に出勤しました。

**お勤め一筋の主人を支え、
義父母を介護し、お寺を支えました**

夫はお寺のお勤め一筋の人で毎日檀家を廻ります。私は幼稚園の責任者を務めました。園児が私にまとわりつくのを遠くで見ている我が子に胸を痛めたこともあり、その後、義父の介護を10年、続いて義母の介護を12年しました。私ひとりで見切りました。時には泣きたくなることもありましたが、いつも義母が私に手を合わせたので、心からのお世話ができました。

ありし日のご主人と一緒に
お寺の嫁としての躰を厳しく教えてくれました。私は嫁いだ日から家族10人の食事の支度を任せられました。そんな大勢の支度をしたことなんてありません。これには泣けましたねえ。毎朝4時に起床し、お釜でご飯を炊いて食事の支度を済ませてから幼稚園に出勤しました。

ます。老若男女様々な人とお話ししてきました。世間話一つとっても気遣いが求められます。こうやって、私は57年もの長い間お寺を支えてきました。

**息子夫婦に任せられると
思ったとき、(ゆうゆうの里)の資料を取り寄せました**

跡継ぎの息子は在家の娘さんと結婚しました。学校を出てすぐ親元を離れた嫁は料理を習う機会もなかったのでしょうか。私が一から教えました。「大丈夫、できることからやりましょう」と。今では何でも作れますよ。天ぷらも上手に揚げますしね、どことなく私の味に似てきたようです。孫の手が離れた頃、私は朝一番の寺中のご飯とお水の取り替え、台所の仕事を嫁に譲りました。その後、主人を見送り、息子が住職を継いだ時、「若奥さん」に、残っていた私の役割を譲りました。これで息子夫婦に代替わりできて安心しました。同時に嫁には、親の介護なんてさせられないとも思いました。そんな時(ゆうゆうの里)の資料を取



**手に入れた自由で楽しい
時間を長く続けたい**

入居してからは、部屋に一人いても寂しいと思ったことはありません。昔はテレビを観る暇なんてありませんでした。今は好きなだけ好きな番組を観ています。気に入った本をゆつくり読むのも大切な時間です。なんて幸せかしらと思えます。

食堂で顔見知りになった入居者と一緒に農園をやっています。ある日、「農園を始めたけど、花のことは全くわからない。僕が耕すから、岡本さん教えて欲しい」と頼まれたのです。力仕事は彼に任せて、私は好きな花を植えて育てる係です。最近はミニトマトやジャガイモなど野菜も育てています。

折り紙同好会では、季節に応じた思い思いの作品を2〜3カ月前から取りかかり完成させます。細かなパーツを組み合わせて立体的に作ります。あれこれとおしゃべりしながら楽しい。健康に気をつけ、手に入れた自由で楽しい時間を長く続けたいです。